

氏名	重 西 邦 浩
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 1803 号
学位授与の日付	平成10年3月31日
学位授与の要件	医学研究科病理系病理学(二)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	bcl-6 Protein is Identified in High-Grade but not Low-Grade Mucosa-Associated Lymphoid Tissue (MALT) Lymphomas of the Stomach (bcl-6 蛋白は胃のMALTリンパ腫の高悪性度型に発現し低悪 性度型には発現しない)
論文審査委員	教授 岡田、茂 教授 清水 憲二 教授 原田 実根

学位論文内容の要旨

胃の低悪性度MALTリンパ腫はしばしば高悪性度リンパ腫へとtransformする事が知られている。この高悪性度化に伴いp53遺伝子の変異の頻度とその蛋白の発現の増大が以前に報告されている。bcl-6は3q27領域にある癌関連遺伝子で30-45%のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫(DLL)に再構成が認められる。

本研究で我々は、胃のMALTリンパ腫およびDLLでbcl-6蛋白およびp53蛋白の発現を免疫組織化学的に検討した。8例の高悪性度MALTリンパ腫のうち、4例でbcl-6蛋白、6例でp53蛋白が陽性で、6例のDLLではbcl-6蛋白とp53蛋白がそれぞれ4例に陽性であった。即ち高悪性度MALTリンパ腫とDLLでは全例でbcl-6蛋白とp53蛋白のいずれか若しくは両者の発現を認めた。一方17例の低悪性度MALTリンパ腫ではbcl-6蛋白の陽性例はなくp53蛋白の発現も稀であった。以上よりbcl-6蛋白もp53同様、胃MALTリンパ腫の高悪性度化に関与をしていると思われた。

論文審査結果の要旨

本研究は、低悪性度、高悪性度MALTリンパ腫および、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫(DLL)におけるbcl-6蛋白およびp53蛋白の発現を免疫組織化学的に検討することにより、低悪性度より高悪性度への進展に関与する因子を検討したものである。その結果、8例の高悪性度MALTリンパ腫のうち、4例でbcl-6蛋白、6例でp53蛋白が陽性で、6例のDLLではbcl-6蛋白とp53蛋白がそれぞれ4例に陽性であり、全例でbcl-6蛋白とp53蛋白のいずれか若しくは両者の発現を認めた。一方17例の低悪性度MALTリンパ腫ではbcl-6蛋白の陽性例はなくp53蛋白の発現も稀であった。以上よりbcl-6蛋白とp53蛋白は協同的、あるいは相補的に胃MALTリンパ腫の高悪性度化に関与していると思われた。この研究ははまだ機能について不明のタンパクであるbcl-6の悪性進展における役割についての新たな知見を得たものと解釈される。

よって本研究者は、博士(医学)の学位を得る資格があると認める。